

立命館大学人文科学研究紀要

No. 122

目 次

小特集：あたらしい日本近現代史研究の模索

巻頭言	小 関 素 明(1)
日本国憲法第九十八条第二項成立過程再考	穎 原 善 徳(5)
「ヒロシマ」の原理	
—1980年以降の原爆表象を中心に—	後 山 剛 毅(49)
朝鮮人の「内地潜入」と日本帝国の移動統制	
—『御大礼不穩計画情報』を手がかりに—	李 俊 榮(73)
左川ちか年譜稿	島 田 龍(101)

小特集：交流と再生の地、京都： 〈よみがえりの都市〉としての相貌

巻頭言	ウエルズ 恵子(201)
16世紀戦乱下の北野社宮仕の生活と交流	
—能哲の「日記」から—	三 枝 暁 子(205)
京都の中の朝鮮	
—西ノ京の焼肉屋から見た京都の国際交流—	庵 途 由 香(229)
都と異界の狭間、深泥池・市原野・鞍馬・貴船	
—矛盾からの再生—	ウエルズ 恵子(243)
京に静かに響く音	
—道成寺の鐘、南蛮寺の鐘にまつわる交流と再生—	西 岡 亜 紀(263)
大岡昇平における〈京都〉	
—木橋を踏む淋しさと愛する疎水の風景—	花 崎 育 代(279)
初の英文京都ガイドブックと	
京都の国際的観光地化における耳塚	川 内 有 子(295)

論文

鶴字鶴紋禁令が元禄期の社会に与えた影響について	上 安 祥 子(319)
-------------------------	--------------

2020年2月

立命館大学人文科学研究所

